

DirectLink DLC 対応版
日本語 5250 エミュレータ
Ver5.04-01
リリースメモ

Excel は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

目次

[Ver.5.04-01 での変更内容].....	1
---------------------------	---

[Ver.5.04-01 での変更内容]

No	概要	VerUp 区分	変更区分
1	印刷コマンドファイル(PCF)の登録内容にしたがって、プリンタ制御コードをプリンタへ出力する機能に対応、IBM プリンタ定義ファイル(PDF)を利用しての印刷にも対応	機能追加	プリンタ セッション/ ローカルコピー
2	印刷コマンドファイル(Print Command File:PCF)の作成・変更、および設定方法を示した、『印刷コマンドファイル・リファレンスマニュアル』をマスタ CD-ROM に追加	機能追加	プリンタ セッション/ ローカルコピー
3	転送要求ファイルをダブルクリックすることにより、データ転送パネル、またはデータ転送コマンドラインプログラムを起動できる機能（関連付け）を追加	機能追加	データ転送
4	関連付け機能で定義した転送要求ファイルからデータ転送パネルを起動する場合、データ転送パネルの起動と同時にデータ転送開始、およびデータ転送完了時にデータ転送パネルを終了する機能を追加	機能追加	データ転送
5	データ転送パネルでデータ送受信の完了時、転送完了メッセージを表示する／しないを指定する機能を追加	機能追加	データ転送

No	概要	VerUp 区分	変更区分
6	<p>Set Session Parameters(9)のセッション・オプションに"RETRY（規定値）/NORETRY"機能を追加</p> <p>セッション・オプションの設定により、Send Key(3)を呼び出した場合下記の動作を行う</p> <p>RETRY：キーストロークが送信されるか、4分のタイムアウトが発生するまでキーストロークの再送を行う</p> <p>NORETRY：キーボードがブロックまたは使用されていることが確認されたら、関数は即座に戻る</p>	機能追加	API 機能

No	概要	VerUp 区分	変更区分
7	入力フィールドの末尾が半角空白文字で埋められている場合、文字の挿入ができない現象を修正	バグ修正	ディスプレイセ ッション
8	データ転送パネルを起動後、データ転送に関係のない Excel ファイルをダブルクリックやファイルの右メニューから開いた状態で、Excel ファイルのデータ送受信が完了した場合、開いていたデータ転送に関係のない Excel ファイルが閉じてしまう現象を修正	バグ修正	データ転送
9	データ転送（送信）で、送信ファイル名の指定で拡張子を省略している場合、送信ファイルの指定フォルダに同じファイル名で拡張子が異なる BIFF8 形式(.xls)と Office Open XML 形式(.xlsx)のファイルが存在すると、必ず Office Open XML 形式(.xlsx)のファイルが送信されてしまう現象を修正	バグ修正	データ転送
10	データ転送（送信）で、[オブジェクトの作成]設定に「ファイルおよびメンバーを作成」、または「新しいメンバーを作成」を指定した場合、送信データに送信先フィールド長を超える長さのデータが含まれているとデータ転送に失敗する現象を修正	バグ修正	データ転送
11	データ転送（送信）で、存在しない形式記述ファイル(FDF ファイル)を指定して実行しても、「形式記述ファイル（FDF ファイル）が見つかりません。」のエラーメッセージが表示されない現象を修正	バグ修正	データ転送

No	概要	VerUp 区分	変更区分
12	「エミュレータのプロパティ」の状況依存ヘルプの誤記を修正 「nLPIの印刷方式」-「行数基準」の有効範囲の上限 誤：128行 正：255行	説明修正	ヘルプ

No.7	入力フィールドの末尾が半角空白文字で埋められている場合、文字の挿入ができない現象を修正
発生条件	入力フィールドの末尾が半角空白文字で埋められている場合に、文字を挿入する。
障害内容	入力フィールドに文字が挿入できない。
アップデート未実施時の回避策	入力フィールドの末尾にある半角空白文字を削除し文字を挿入する。

No.8	データ転送パネルを起動後、データ転送に関係のない Excel ファイルをダブルクリックやファイルの右メニューから開いた状態で、Excel ファイルのデータ送受信が完了した場合、開いていたデータ転送に関係のない Excel ファイルが閉じてしまう現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・データ転送パネルが起動されている状態で、データ転送に関係ない Excel ファイルを開く。 (エクスプローラで「ファイルのダブルクリック」、または「ファイルを右クリックしメニューから開くを選択」) ・データ転送(送受信)のファイルタイプに Excel ファイル(BIFF8 形式(.xls)、または Office Open XML 形式(.xlsx))を指定 ・データ転送で Excel 形式のデータを送信、または受信する。
障害内容	データ転送に関係のない Excel ファイルが閉じてしまう。
アップデート未実施時の回避策	データ転送パネルを起動した状態で、「ファイルのダブルクリック」や、「ファイルを右クリックしメニューから開くを選択」で Excel ファイルを開かない。

No.9	データ転送（送信）で、送信ファイル名の指定で拡張子を省略している場合、送信ファイルの指定フォルダに同じファイル名で拡張子が異なる BIFF8 形式(.xls)と Office Open XML 形式(.xlsx)のファイルが存在すると、必ず Office Open XML 形式(.xlsx)のファイルが送信されてしまう現象を修正
発生条件	<p>以下の条件をすべて満たしている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ転送の送信を実行 ・送信ファイルの指定フォルダに同じファイル名で拡張子のみが異なる BIFF8 形式(.xls)と Office Open XML 形式(.xlsx)の Excel ファイルが存在 ・データ転送の送信ファイル名の指定で拡張子を省略 ・送信に使用する形式記述ファイル(.fdf)のファイルタイプに BIFF8 形式(.xls)を指定
障害内容	BIFF8 形式の Excel ファイル(.xls)ではなく、必ず Office Open XML 形式(.xlsx)の Excel ファイルのデータが送信されてしまう。
アップデート 未実施時の 回避策	データ転送（送信）の送信ファイル名に拡張子(.xls/.xlsx)まで指定する。

No.10	データ転送（送信）で、[オブジェクトの作成]設定に「ファイルおよびメンバーを作成」、または「新しいメンバーを作成」を指定した場合、送信データに送信先フィールド長を超える長さのデータが含まれているとデータ転送に失敗する現象を修正
発生条件	<p>以下の条件をすべて満たしている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ転送の送信を実行 ・送信データに送信先フィールド長を超えるデータが存在 ・CSV ファイル/ SYLK ファイル/ Excel ファイル(BIFF8 形式(.xls)と Office Open XML 形式(.xlsx))/BASIC 順次ファイル/タブ区切りテキストファイルを送信 ・[オブジェクトの作成]に「ファイルおよびメンバーを作成」、または「新しいメンバーを作成」を指定
障害内容	<p>データ転送（送信）で、下記メッセージを表示後、[OK] ボタンで処理を継続すると、データ転送に失敗する。</p> <p>「送信転送処理に失敗しました。[データ形式変換制御：(0716)] このフィールドのデータが IBM i フィールド・サイズを超えています。フィールド・サイズを超えるデータは切り捨てて送信します。<MakeDataSendTelegram>(0x40000716)よろしいですか？」</p>
アップデート未実施時の回避策	[オブジェクトの作成]を「メンバーの置き換えのみ」に変更してデータ転送(送信)を再実行する。

No.11	データ転送（送信）で、存在しない形式記述ファイル(FDF ファイル)を指定して実行しても、「形式記述ファイル（FDF ファイル）が見つかりません。」のエラーメッセージが表示されない現象を修正
発生条件	<p>以下の条件をすべて満たしている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ転送の送信を実行 ・存在しない形式記述ファイル(FDF ファイル)を指定 ・[オブジェクトの作成]設定に「ファイルおよびメンバーを作成」、または「新しいメンバーの作成」を指定 ・データ転送パネル起動後に少なくとも1回以上、データ転送の送信が正常終了
障害内容	データ転送（送信）で、「形式記述ファイル（FDF ファイル）が見つかりません。」のエラーメッセージが表示されず、「メンバーxxxxはライブラリーyyyyのファイル zzzz に既に存在している。」のエラーメッセージが表示される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.12	「エミュレータのプロパティ」の状況依存ヘルプの誤記を修正
変更内容	<p>ローカルコピー、およびプリンタ設定の「nLPIの印刷方式」の状況依存ヘルプの誤記を修正。</p> <p>「nLPIの印刷方式」－「行数基準」の有効範囲の上限</p> <p>誤：128行</p> <p>正：255行</p>
参照先	<p>「エミュレータのプロパティ」アプリケーションの下記の状況依存ヘルプ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[セッション設定] タブー [ローカルコピー設定] [基本設定] タブー [nLPIの印刷方式] ・[プリンタ定義] タブ 「プリンタ定義」を選択－ [設定] ボタン [基本設定] タブー [nLPIの印刷方式]

DirectLink DLC 対応版
日本語 5250 エミュレータ
Ver5.03-02
リリースメモ

Microsoft、Windows、Windows Server、Excel および Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

目次

[Ver.5.03-02 での変更内容].....	1
---------------------------	---

[Ver.5.03-02 での変更内容]

No	概要	VerUp 区分	変更区分
1	以下の OS に対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ Windows Server 2016 Standard Edition ・ Windows Server 2016 Datacenter Edition 	機能追加	システム全般
2	対応するホストコードを 0x4141~0x7FFE から 0x4141~0xFEFE に変更	機能追加	システム全般
3	送受信ファイルタイプに以下の形式に対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ BIFF8 形式：Microsoft Excel 97-2003 (.xls) ・ Office Open XML 形式：Microsoft Excel (.xlsx) ・ タブ区切りテキスト 	機能追加	データ転送
4	転送要求ファイルの形式に IBM i Access for Windows V7 の転送要求ファイル (dtt/dtf 形式) を対応 (読み込みのみ対応)	機能追加	データ転送
5	IBM i Access for Windows V7 の転送要求ファイル (dtt/dtf 形式) の読み込みで、サポートしていない設定を検出した際にエラーメッセージを表示し、エラーログを出力する機能を追加	機能追加	データ転送
6	CCSID (日本語変換用のコード化文字セット ID) 65535 が指定されているフィールドの変換に対応	機能追加	データ転送
7	データ転送で、以下のオーダーに対応する警告(戻り値 1)を IBM i から受信してもエラーとせず受信処理を継続するように対応 <ul style="list-style-type: none"> ・「ユーザ定義オプション 3」オーダー ・「拡張 AS400 オプション要求 2」オーダー 	仕様変更	データ転送

No	概要	VerUp 区分	変更区分
8	データ転送（送信）で、フィールドより長いデータを送信しようとしたときに続行か中断か選択できる機能を追加	仕様変更	データ転送
9	3270 と 5250 の共存環境でシステム終了を行うと、ディスプレイセッション終了処理途中に停止する現象がある現象を修正	バグ修正	ホストリンク エクスプローラ
10	ホストリンクエクスプローラの右側ウィンドウからツールが起動できない現象を修正	バグ修正	ホストリンク エクスプローラ
11	「高度な設定」の「「エミュレータのプロパティ」の表示」チェックがオフの場合、プロパティメニューが選択不能（グレー表示）にならない現象を修正	バグ修正	ホストリンク エクスプローラ
12	全桁入力フィールドで全桁入力せずに一部の機能キーを押下しても、IBM i にエラーが送信されない現象を修正	バグ修正	ディスプレイ セッション
13	漢字フィールド指定を伴わない継続入力フィールドのデータを、漢字フィールドのデータとして送信する現象を修正	バグ修正	ディスプレイ セッション
14	全角の FIELD EXIT 要求フィールドで入力可能最終桁に文字を入力すると、カーソルが次のフィールドに移動する現象を修正	バグ修正	ディスプレイ セッション
15	符号付数字フィールドで入力可能最終桁に文字を入力するとカーソルが最終桁に残るが、その状態で続けて文字を入力してもエラーにならない現象を修正	バグ修正	ディスプレイ セッション

No	概要	VerUp 区分	変更区分
16	複数の入力フィールドがある画面で、すべての入力フィールドの内容を送信する必要がある場合でも、データが入力されたフィールドの内容のみが送信される現象を修正	バグ修正	ディスプレイ セッション
17	HOME 機能キーを使用した場合、カーソルが正しい位置に移動しない現象を修正	バグ修正	ディスプレイ セッション
18	STARTPC コマンドを実行すると、アプリケーションエラーとなる現象を修正(環境変数関連)	バグ修正	ディスプレイ セッション
19	STARTPC コマンドを実行すると、アプリケーションエラーとなる現象を修正(引数関連)	バグ修正	ディスプレイ セッション
20	キーボードロック状態にならない場合がある現象を修正	バグ修正	ディスプレイ セッション
21	ディスプレイセッションに表示される文字が粗く見える現象を修正	バグ修正	ディスプレイ セッション
22	Windows 10 Anniversary Update (Version 1607) から Fall Creators Update (Version 1709)環境でプリンタセッションが起動しない現象を修正	バグ修正	プリンタ セッション
23	「出力用紙サイズに最適化して印刷」設定が、「終了時の状態を保存」がオンの場合でも保存されない現象を修正	バグ修正	プリンタ セッション

No	概要	VerUp 区分	変更区分
24	数値型フィールドのデータ転送（送信）の場合、ファイルタイプが「CSV 形式」、「ASCII テキスト形式」、または「SYLK 形式」で、小数点以下の桁が省略されている場合、数値が正しく送信されない現象を修正	バグ修正	データ転送
25	データ転送（送信）で、最終行に改行がないテキストファイルを送信すると、最終行のレコードが送信されない現象を修正	バグ修正	データ転送
26	データ転送（送信）で、形式記述ファイル（FDF）を使用しないで日付／時刻フィールドへ送信するとエラーとなる現象を修正	バグ修正	データ転送
27	データ転送（送信）で、送信データの小数点以下の桁数が送信先の数値型フィールドの小数点以下の桁数よりも多い場合、数値が丸められず、不正な桁数のデータとして送信される現象を修正	バグ修正	データ転送
28	データ転送（送信）で、数値型フィールドの送信データに最大値を超える数値が含まれている場合、桁あふれした数値が送信される現象を修正	バグ修正	データ転送
29	データ転送（受信）で、全レコードが受信できていないにも関わらず正常終了する現象がある現象を修正	バグ修正	データ転送
30	データ転送パネル（受信）で設定する形式オプションの「日付形式」表示内容を修正（オンラインヘルプも同様）	バグ修正	データ転送・ヘルプ

No	概要	VerUp 区分	変更区分
31	データ転送（受信）で、数値型フィールドの「DECIMAL 型」フィールドがある場合、アプリケーションエラーが発生する現象を修正	バグ修正	データ転送
32	データ転送（受信）で、数値型フィールドの受信データに指定された桁数よりも多い桁数の数値が含まれている場合、アプリケーションエラーが発生する現象を修正	バグ修正	データ転送
33	データ転送パネルでライブラリー／ファイル（メンバー名）の [参照] ボタンを押下すると表示される、ファイル、およびメンバーの参照画面で発生することがある以下の現象を修正 <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーが表示されない ・異なるファイル配下のメンバーが表示される 	バグ修正	データ転送
34	ライブラリー名、ファイル名、メンバー名、コメント欄に最大文字数分の文字が設定されている場合、[参照] ボタンを押下すると、アプリケーションエラーが発生する現象を修正	バグ修正	データ転送

No	概要	VerUp 区分	変更区分
35	<p>ファイル形式が「BASIC 順次」、または「CSV」の場合、複数レコードを含むファイルの送信で以下の現象を修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファイルの内容は正しいにもかかわらず、以下のエラーになる 「送信転送処理に失敗しました。[データ形式変換制御：(0711)] PC ファイルに誤りがあります。」 ・送信されたレコードの最後のフィールドに余分なダブルクォーテーションが付加されている 	バグ修正	データ転送
36	<p>ファイル形式が「BASIC 順次」、または「CSV」の場合のデータ転送（送信）で、10 進数(INT 型)のフィールドのデータが正しく送信されない現象を修正</p>	バグ修正	データ転送
37	<p>EHLLAPI を使用したアプリケーションの起動が遅くなる場合がある現象を修正</p>	バグ修正	API 機能
38	<p>マクロ記録の一時停止中にマクロ中止機能を実行すると、マクロコントローラが終了しない現象を修正</p>	バグ修正	マクロ
39	<p>VBScript 形式のマクロでセッションの CapsLock 状態、Shift 状態の変化を認識できない現象を修正</p>	バグ修正	マクロ
40	<p>VBScript 形式のマクロで WaitForTransition メソッドで待機が終了しない現象を修正</p>	バグ修正	マクロ

No	概要	VerUp 区分	変更区分
41	IBM 社製 Personal Communications（以降 PCOMM）で記録した VBScript 形式の特定のキーワードが含まれるマクロを再生すると「無効なキーワードが指定されました」のエラーとなる現象を修正	バグ修正	マクロ
42	バージョンアップ後に「エミュレータスタイルの設定」ツールを起動すると以下のメッセージが表示される現象を修正 「レジストリ情報が不正です。 初期設定を行いますか？」	バグ修正	ツール
43	UPF 設定で指定した以下の略号が入れ替わって動作する現象を修正 ・ CrBnk (%K) ・ SpEOF (%L)	バグ修正	ツール
44	コードテーブル設定でコードの割り当てを変更後にファイルの新規作成をすると、一部の割り当て設定が残ってしまう現象を修正	バグ修正	ツール
45	[オンラインヘルプ]-[VBScript マクロ]を選択すると文字化けする現象を修正	バグ修正	ヘルプ

No.2	対応するホストコードを 0x4141~0x7FFE から 0x4141~0xFEFE に変更
詳細	<p>対応する機能は以下の通りです</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスプレイセッション ・ローカルコピー ・プリンタセッション ・ファイル転送 ・データ転送 ・PCSAPI ・EHLLAPI ・マクロ/スクリプト ・キーアサイン ・UPF ・ホットスポット ・マウス設定

No.9	3270 と 5250 の共存環境でシステム終了を行うと、ディスプレイセッション終了処理途中で停止する現象がある現象を修正
発生条件	3270、5250 の各ディスプレイセッションを 1 セッション以上起動した状態で、3270、あるいは 5250 のディスプレイセッション、またはプリンタセッションからシステム終了する。
障害内容	エミュレータが終了できない場合がある。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.10	ホストリンクエクスプローラの右側ウィンドウからツールが起動できない現象を修正
発生条件	ホストリンクエクスプローラで以下の手順を実行した場合。 ①[ツール]メニューから「保守ユーティリティ」を起動 ②右側ウィンドウから「データ転送設定」、または「データ転送」を起動
障害内容	ホストリンクエクスプローラの右側ウィンドウから「データ転送システム設定」、または「データ転送パネル」が起動できない。 下記メッセージが表示される。 「ツールの起動に失敗しました。(WinExec)」
アップデート未実施時の回避策	「エミュレータ保守」の終了後に、「データ転送設定」、または「データ転送」を起動する。

No.11	「高度な設定」の「「エミュレータのプロパティ」の表示」チェックがオフの場合、プロパティメニューが選択不能（グレー表示）にならない現象を修正
発生条件	ホストリンクエクスプローラのプロパティにある「高度な設定」の「カスタマイズ」タブで、「「エミュレータのプロパティ」の表示」のチェックがオフの場合。
障害内容	プロパティが選択できてしまう。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.12	全桁入力フィールドで全桁入力せずに一部の機能キーを押下しても、IBM i にエラーが送信されない現象を修正
発生条件	<p>全桁入力フィールドで、全桁入力していない状態で以下の機能キーを押下した場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PF キー ・ HOME キー ・ タブ・ワードキー ・ 後退タブ・ワードキー ・ ロールアップキー ・ ロールダウンキー ・ ホスト印刷キー
障害内容	<p>全桁入力フィールドで全桁入力せずに一部の機能キーを押下しても IBM i にエラーが送信されず、以下の動作となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PF キー ・ ロールアップキー ・ ロールダウンキー ・ ホスト印刷キー <ul style="list-style-type: none"> ⇒ AID + 画面データが送信 ・ HOME キー ・ タブ・ワードキー ・ 後退タブ・ワードキー <ul style="list-style-type: none"> ⇒ カーソル移動
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.13	漢字フィールド指定を伴わない継続入力フィールドのデータを、漢字フィールドのデータとして送信する現象を修正
発生条件	漢字フィールド指定を伴わない継続入力フィールドに文字を入力して、画面データをホストに送信する場合。
障害内容	ホストに送信されるデータに SO、SI が付加される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.14	全角の FIELD EXIT 要求フィールドで入力可能最終桁に文字を入力すると、カーソルが次のフィールドに移動する現象を修正
発生条件	全角の FIELD EXIT 要求フィールドで、入力可能最終桁に文字を入力した場合。
障害内容	カーソルが次のフィールドに移動する。
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.15	符号付数字フィールドで入力可能最終桁に文字を入力するとカーソルが最終桁に残るが、その状態で続けて文字を入力してもエラーにならない現象を修正
発生条件	符号付数字フィールドで、入力可能最終桁に続けて文字を入力した場合。
障害内容	入力可能最終桁への連続文字入力がエラーにならない。
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.16	複数の入力フィールドがある画面で、すべての入力フィールドの内容を送信する必要がある場合でも、データが入力されたフィールドの内容のみが送信される現象を修正
発生条件	ディスプレイセッションで以下の手順を実行した場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・画面上に「WRITE TO DISPLAY」コマンドで複数の入力フィールドを生成 ・その後、「READ IMMEDIATE」コマンドを受信 ・複数の入力フィールドのうち、一部のみデータ入力 ・実行キー押下
障害内容	すべての入力フィールドのデータではなく、一部のデータしか送信されない。
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.17	HOME 機能キーを使用した場合、カーソルが正しい位置に移動しない現象を修正
発生条件	以下の条件の場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・カーソル位置(IC オーダー)が指定されていない、かつ1行1桁目以外に無保護フィールドがある ・補足空白位置にカーソル位置が指定されている
障害内容	カーソル位置(IC オーダー)が指定されていない、かつ1行1桁目以外に無保護フィールドがある場合は、1行1桁目にカーソル移動し、補足空白位置にカーソル位置が指定されている場合は、次行の補足空白位置の次の桁に移動する。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.18	STARTPC コマンドを実行すると、アプリケーションエラーとなる現象を修正(環境変数関連)
発生条件	以下の3つの合計が1024バイト以上の場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・現在のシステム環境変数「Path」に登録されているバイト数 ・エミュレータの共通フォルダ名のバイト数 ・エミュレータの接続別フォルダ名のバイト数
障害内容	STARTPC コマンドを実行すると、アプリケーションエラーとなる。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.19	STARTPC コマンドを実行すると、アプリケーションエラーとなる現象を修正(引数関連)
発生条件	STARTPC コマンドで8個以上の引数を設定した場合。
障害内容	STARTPC コマンドを実行すると、アプリケーションエラーとなる。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.20	キーボードロック状態にならない場合がある現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・オPCODEに 0x03（書き込み/読み込みオペレーション）が指定されている ・WRITE TO DISPLAY データでキーボードロック解除が指定されていない
障害内容	キーボードロック解除が指定されていないデータを受信しても、キーボードロック状態にならない。
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.21	ディスプレイセッションに表示される文字が粗く見える現象を修正
発生条件	「MS 明朝」のようなセリフ付きフォントが選択されている場合。
障害内容	ディスプレイの表示文字を拡大すると文字が粗く見える。
アップデート 未実施時の 回避策	フォントを「MS ゴシック」のようなセリフなしフォントに変更する。

No.22	Windows 10 Anniversary Update (Version 1607) から Fall Creators Update (Version 1709)環境でプリンタセッションが起動しない現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・Windows 10 Anniversary Update (Version 1607)が適用済み ・Windows 10 の機能で「Windows で通常使うプリンターを管理する」機能がオン ・プリンタセッションのプロパティの出力先が「通常使うプリンター」に設定されている
障害内容	プリンタセッションが起動しない。
アップデート 未実施時の 回避策	以下のいずれかの方法を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・Windows 10 の機能で「Windows で通常使うプリンターを管理する」機能をオフにする ・プリンタセッションのプロパティの出力先に「通常使うプリンター」以外を設定する

No.23	「出力用紙サイズに最適化して印刷」設定が、「終了時の状態を保存」がオンの場合でも保存されない現象を修正
発生条件	「出力用紙サイズに最適化して印刷」の設定内容を変更(無効・有効)後、プリンタセッションを再起動した場合。
障害内容	「出力用紙サイズに最適化して印刷」の設定変更が保存できない。
アップデート未実施時の回避策	ツールパネル内のエミュレータのプロパティで「出力用紙サイズに最適化して印刷」をオンに設定後、プリンタセッションを起動する。

No.24	数値型フィールドのデータ転送（送信）の場合、ファイルタイプが「CSV形式」、「ASCII テキスト形式」、または「SYLK 形式」で、小数点以下の桁が省略されている場合、数値が正しく送信されない現象を修正																											
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・データ転送（送信） ・ファイルタイプに「CSV 形式」、「ASCII テキスト形式」、または「SYLK 形式」のいずれかが設定されている ・小数点付きの数値型フィールドに小数点以下の桁が有効桁数分設定されていない 																											
障害内容	データ転送時、数値が正しく送信されない。 数値型フィールドのデータ転送時、小数点以下の桁数を調整せず送信していたため、数値の桁がずれて送信していた。 例えば 小数点以下を 2 桁とした場合。 <table style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th><設定値></th> <th><誤></th> <th><正></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>0.3</td><td>0.03</td><td>0.30</td></tr> <tr><td>0.03</td><td>0.03</td><td>0.03</td></tr> <tr><td>3</td><td>0.03</td><td>3.00</td></tr> <tr><td>3.0</td><td>0.30</td><td>3.00</td></tr> <tr><td>3.00</td><td>3.00</td><td>3.00</td></tr> <tr><td>30</td><td>0.30</td><td>30.00</td></tr> <tr><td>300</td><td>3.00</td><td>300.00</td></tr> <tr><td>3000</td><td>30.00</td><td>3000.00</td></tr> </tbody> </table>	<設定値>	<誤>	<正>	0.3	0.03	0.30	0.03	0.03	0.03	3	0.03	3.00	3.0	0.30	3.00	3.00	3.00	3.00	30	0.30	30.00	300	3.00	300.00	3000	30.00	3000.00
<設定値>	<誤>	<正>																										
0.3	0.03	0.30																										
0.03	0.03	0.03																										
3	0.03	3.00																										
3.0	0.30	3.00																										
3.00	3.00	3.00																										
30	0.30	30.00																										
300	3.00	300.00																										
3000	30.00	3000.00																										
アップデート未実施時の回避策	特になし。																											

No.25	データ転送（送信）で、最終行に改行がないテキストファイルを送信すると、最終行のレコードが送信されない現象を修正
発生条件	複数レコードのテキストファイルで最終行のレコードに改行がない場合。
障害内容	データ転送で最終行に改行がないテキストファイルを送信すると、最終行のレコードが送信されない。
アップデート 未実施時の 回避策	テキストファイルの最終行のレコードに改行コードを付加する。

No.26	データ転送（送信）で、形式記述ファイル（FDF）を使用しないで日付／時刻フィールドへ送信するとエラーとなる現象を修正
発生条件	以下の条件をすべて満たしている場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・データ転送（送信） ・データに日付、または時刻が含まれている ・形式記述ファイル（FDF）を使用しないで送信している ・データの日付、および時刻のフォーマットが直前に送信したデータのフォーマットと異なっている 例えば 直前のフォーマットが「YY/MM/DD」形式で、今回は「MM/DD/YY」形式の場合
障害内容	形式記述ファイル（FDF）を使用しない日付／時刻フィールドへの送信で、エラー：0xFFFFFFFF4Bが発生する。
アップデート 未実施時の 回避策	送信データの正しいフォーマットが記載されている形式記述ファイル（FDF）を使用して送信する。 形式記述ファイル（FDF）がない場合は、一度受信を行って形式記述ファイル（FDF）を作成する。

No.27	データ転送（送信）で、送信データの小数点以下の桁数が送信先の数値型フィールドの小数点以下の桁数よりも多い場合、数値が丸められず、不正な桁数のデータとして送信される現象を修正
発生条件	<p>以下の条件をすべて満たしている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ転送（送信） ・ファイルタイプが、「BASIC 順次形式」、「CSV 形式」、「ASCII テキスト形式」、または「SYLK 形式」 ・送信データの小数点以下の桁数が送信先の数値型フィールドの小数点以下の桁数よりも多い
障害内容	データ転送（送信）で、数値型フィールドの指定された小数点以下の桁数よりも多い桁数の数値を送信すると、警告が発生せず、数値を丸めず、桁数も調整せずに送信される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.28	データ転送（送信）で、数値型フィールドの送信データに最大値を超える数値が含まれている場合、桁あふれした数値が送信される現象を修正
発生条件	<p>以下の条件をすべて満たしている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ転送（送信） ・ファイルタイプが、「BASIC 順次形式」、「CSV 形式」、「ASCII テキスト形式」、または「SYLK 形式」 ・データが数値型フィールドで最大値よりも大きい数値の場合
障害内容	データ転送（送信）で、桁あふれした数値が送信される。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.29	データ転送（受信）で、全レコードが受信できていないにも関わらず正常終了する場合があります現象を修正
発生条件	データ転送（受信）で、ホストより異常通知コード「0x000002BE」が通知された場合。
障害内容	データ転送（受信）で、ホストより異常通知コード「0x000002BE」が通知されても正常終了する。
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.30	データ転送パネル（受信）で設定する形式オプションの「日付形式」表示内容を修正（オンラインヘルプも同様）								
発生条件	データ転送パネル（受信）の [オプション] メニューから「形式オプション」を表示した場合。								
障害内容	データ転送パネル（受信）で設定する形式オプションの「日付形式」の選択肢で形式が誤っているものがある。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;"><誤></td> <td style="text-align: center;"><正></td> </tr> <tr> <td>[MDY] 月日年 (mm/dd/yyyy)</td> <td>[MDY] 月日年 (mm/dd/yy)</td> </tr> <tr> <td>[DMY] 日月年 (dd/mm/yyyy)</td> <td>[DMY] 日月年 (dd/mm/yy)</td> </tr> <tr> <td>[YMD] 年月日 (yyyy/mm/dd)</td> <td>[YMD] 年月日 (yy/mm/dd)</td> </tr> </table>	<誤>	<正>	[MDY] 月日年 (mm/dd/yyyy)	[MDY] 月日年 (mm/dd/yy)	[DMY] 日月年 (dd/mm/yyyy)	[DMY] 日月年 (dd/mm/yy)	[YMD] 年月日 (yyyy/mm/dd)	[YMD] 年月日 (yy/mm/dd)
<誤>	<正>								
[MDY] 月日年 (mm/dd/yyyy)	[MDY] 月日年 (mm/dd/yy)								
[DMY] 日月年 (dd/mm/yyyy)	[DMY] 日月年 (dd/mm/yy)								
[YMD] 年月日 (yyyy/mm/dd)	[YMD] 年月日 (yy/mm/dd)								
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。								

No.31	データ転送（受信）で、数値型フィールドの「DECIMAL 型」フィールドがある場合、アプリケーションエラーが発生する現象を修正
発生条件	<p>以下の条件をすべて満たしている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ転送（受信） ・数値型フィールドの「DECIMAL 型」フィールドがあり、通知された「全桁数」が偶数桁 ・ディスプレイ出力、またはファイル出力でファイル形式が「ASCII テキスト」、「BASIC 順次」、「SYLK 形式」、または「CSV 形式」
障害内容	データ転送（受信）で、アプリケーションエラーが発生する。
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.32	データ転送（受信）で、数値型フィールドの受信データに指定された桁数よりも多い桁数の数値が含まれている場合、アプリケーションエラーが発生する現象を修正
発生条件	<p>以下の条件をすべて満たしている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ転送（受信） ・「SMALLINT 型」、または「INTEGER 型」の数値型フィールドで、最大桁数を超える桁数の値が含まれている
障害内容	データ転送（受信）で、アプリケーションエラーが発生する。
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.33	データ転送パネルでライブラリー／ファイル（メンバー名）の [参照] ボタンを押下すると表示される、ファイル、およびメンバーの参照画面で発生することがある以下の現象を修正 <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーが表示されない ・異なるファイル配下のメンバーが表示される
発生条件	以下のいずれかの操作で発生する可能性がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・大量にファイルがあるライブラリーを参照した場合 ・大量のフィールドが存在するファイルを受信しようとした場合
障害内容	ライブラリー／ファイル（メンバー名）の [参照] ボタンを押下しても、メンバーが表示されなかったり、異なるファイル配下のメンバーが表示されることがある。
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.34	ライブラリー名、ファイル名、メンバー名、コメント欄に最大文字数分の文字が設定されている場合、[参照] ボタンを押下すると、アプリケーションエラーが発生する現象を修正
発生条件	以下のいずれかの条件を満たしている場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・ライブラリー名が 30 文字の場合 ・ファイル名が 10 文字の場合 ・メンバー名が 10 文字の場合 ・コメント欄に半角だけで 50 文字入力されている場合（全角文字が含まれる場合は全角文字 1 文字で半角文字 2 文字分となります）
障害内容	ライブラリー／ファイル（メンバー名）の [参照] ボタンを押下すると、アプリケーションエラーが発生する。
アップデート未実施時の回避策	コメント欄は文字数を減らすことで回避可能。それ以外は回避不可能。

No.35	<p>ファイル形式が「BASIC 順次」、または「CSV」の場合、複数レコードを含むファイルの送信で以下の現象を修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファイルの内容は正しいにもかかわらず、以下のエラーになる 「送信転送処理に失敗しました。[データ形式変換制御：(0711)] PC ファイルに誤りがあります。」 ・送信されたレコードの最後のフィールドに余分なダブルクォーテーションが付加されている
発生条件	<p>以下の条件をすべて満たしている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ転送（送信） ・ファイル形式が「BASIC 順次」、または「CSV」 ・送信するデータが複数レコード ・送信するデータで、前のレコード長が後ろのレコードより長い ・フィールドの区切り文字であるカンマが、後ろのレコードの改行コードの次の位置に存在する
障害内容	<p>ファイル形式が「BASIC 順次」、または「CSV」のファイルを送信した場合、送信エラーが発生する。</p>
アップデート 未実施時の 回避策	<p>特になし。</p>

No.36	<p>ファイル形式が「BASIC 順次」、または「CSV」の場合のデータ転送（送信）で、10 進数(INT 型)のフィールドのデータが正しく送信されない現象を修正</p>
発生条件	<p>以下の条件をすべて満たしている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ転送（送信） ・ファイル形式が「BASIC 順次」、または「CSV」 ・送信先のファイルに 10 進数（INT 型）のフィールドがある
障害内容	<p>10 進数(INT 型)フィールドのデータが、以下の値で送信される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前に 10 進数(SHORT 型)フィールドがある場合はそのフィールドと同じ値 ・前に 10 進数(SHORT 型)フィールドがない場合は 0
アップデート 未実施時の 回避策	<p>特になし。</p>

No.37	EHLLAPI を使用したアプリケーションの起動が遅くなる場合がある現象を修正
発生条件	EHLLAPI を使用している場合。
障害内容	EHLLAPI モジュールは起動時に EHLLAPI トレースモジュールと通信を行っているが、この通信に時間がかかることがあり、起動が遅くなる。
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.38	マクロ記録の一時停止中にマクロ中止機能を実行すると、マクロコントローラが終了しない現象を修正
発生条件	他のマクロが再生していない状態で以下の手順を行った場合。 ①マクロコントローラが起動していない状態で、ディスプレイセッションからマクロ記録開始 ②「マクロ記録」中に「一時停止」し、そのまま「マクロ中止」
障害内容	マクロ記録を一時停止中にマクロ中止機能を実行すると、マクロコントローラが終了しない。
アップデート 未実施時の 回避策	特になし。

No.39	VBScript 形式のマクロでセッションの CapsLock 状態、Shift 状態の変化を認識できない現象を修正
発生条件	対象セッション以外のウィンドウにフォーカスを当てた状態で CapsLock 状態、Shift 状態を変更した場合。
障害内容	VBScript 形式のマクロでセッションの CapsLock 状態、Shift 状態の正しい状態が認識できない。
アップデート 未実施時の 回避策	セッションにフォーカスを当てた状態で CapsLock 状態、Shift 状態を変更する。

No.40	VBScript 形式のマクロで WaitForTransition メソッドで待機が終了しない現象を修正
発生条件	emIECLOIA.WaitForTransition メソッドのパラメーターIndex (ガイドライン位置) に 2A、2B、2C を指定して、別のウィンドウにフォーカスを当てた状態で CapsLock 状態、Shift 状態を変更した場合。
障害内容	WaitForTransition メソッドで CapsLock 状態、Shift 状態の変更を待つと、待機が終了しない。
アップデート 未実施時の 回避策	セッションにフォーカスを当てた状態で CapsLock 状態、Shift 状態を変更する。

No.41	IBM 社製 Personal Communications (以降 PCOMM) で記録した VBScript 形式の特定のキーワードが含まれるマクロを再生すると「無効なキーワードが指定されました」のエラーとなる現象を修正
発生条件	PCOMM で以下の機能キーの入力を記録した VBScript 形式のマクロを再生した場合。 <ul style="list-style-type: none"> ・ロールアップ ・ロールダウン ・テスト要求
障害内容	PCOMM で記録した VBScript 形式のマクロを再生するとエラーになる。
アップデート 未実施時の 回避策	PCOMM で記録した VBScript 形式のマクロをテキストエディタで開き、エラーとなる PCOMM のキーワードを書き換えて保存し、修正後の VBScript 形式のマクロを再生する。 エラーとなる PCOMM のキーワードと修正後のキーワードの対応は以下の通り。 [roll up] → [pagedn] ロールアップ [roll down] → [pageup] ロールダウン [test request] → [test] テスト要求

No.42	バージョンアップ後に「エミュレータスタイルの設定」ツールを起動すると以下のメッセージが表示される現象を修正 「レジストリ情報が不正です。初期設定を行いますか？」
発生条件	バージョンアップインストール後、旧バージョン（5.03-01 以前）の設定を「レジストリ保守」で復元し、「エミュレータスタイルの設定」ツールを起動した場合。
障害内容	バージョンアップ後に「エミュレータスタイルの設定」ツールを起動すると以下のメッセージが表示され、「はい」を選択した場合は旧バージョンでカスタマイズした内容が破棄され、「いいえ」を選択した場合はスタイルを変更できない。 「メッセージ」 レジストリ情報が不正です。初期設定を行いますか？
アップデート未実施時の回避策	特になし。

No.43	UPF 設定で指定した以下の略号が入れ替わって動作する現象を修正 ・ CrBnk (%K) ・ SpEOF (%L)
発生条件	UPF ボタンにエミュレータ機能キー「CrBnk」、または「SpEOF」を割り当てた場合。
障害内容	「CrBnk」を割り当てたボタンで「SpEOF」が動作する。または「SpEOF」を割り当てたボタンで「CrBnk」が動作する。
アップデート未実施時の回避策	該当するキーを UPF に設定する際に名前を入れ替えて付ける。 [CrBnk (%K) ⇔ SpEOF (%L)]

No.44	コードテーブル設定でコードの割り当てを変更後にファイルの新規作成をすると、一部の割り当て設定が残ってしまう現象を修正
発生条件	<p>コードテーブル設定で以下の手順を実行した場合。</p> <p>①テーブルの最後の数文字（2バイトコード：2文字、1バイトコード：4文字）の割り当てを変更</p> <p>②「ファイル」メニューから「新規作成」を選択して差分ファイルを新規作成</p>
障害内容	コードテーブル設定でコードの割り当てを変更後にファイルの新規作成をすると、一部の割り当て設定が残ってしまう。
アップデート未実施時の回避策	「新規作成」で継続して設定を行う代わりに、一旦コードテーブル設定を再起動してから設定を行う。

No.45	[オンラインヘルプ]-[VBScript マクロ]を選択すると文字化けする現象を修正
発生条件	Internet Explorer メニュー「表示」－「エンコード」で「日本語（シフト JIS）」以外を選択しヘルプを起動した場合。
障害内容	ヘルプが文字化けする。
アップデート未実施時の回避策	<p>以下のいずれかを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Internet Explorer のエンコードを「シフト JIS」へ変更 ・「VBScript マクロ」ヘルプの右画面で、右クリック「プロパティ」選択し、「OK/キャンセル」を選択

お客様各位

キヤノンITソリューションズ株式会社

DirectLink DLC対応版
日本語5250エミュレータ
バージョン5.03 リビジョン01 変更内容について

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「DirectLink DLC 対応版 日本語 5250 エミュレータ」
(Ver.5.02-01→Ver.5.03-01) において、下記のような改修を行いましたのでお知らせ
致します。

敬具

記

[強化項目]

以下の機能を強化しました。

[システム全般]

- ◎以下の OS に対応しました。
 - ・ Microsoft Windows 10 Pro
 - ・ Microsoft Windows 10 Pro x64
 - ・ Microsoft Windows 10 Enterprise
 - ・ Microsoft Windows 10 Enterprise x64

- ◎以下の OS を動作対象から除きました。
 - ・ Microsoft Windows 8 Pro
 - ・ Microsoft Windows 8 Pro x64
 - ・ Microsoft Windows 8 Enterprise
 - ・ Microsoft Windows 8 Enterprise x64

[ディスプレイ機能関連]

- ◎IBM 製 Personal Communications で記録して作成した VBScript 形式のマクロファイルを使用できるようにしました。

- ◎ディスプレイセッションの [操作] メニューに、マクロ機能のメニューを追加しました。
ただし、初期設定では非表示のため、表示するには、エミュレータスタイルの設定で“表示”にする必要があります。

[改修項目]

以下の問題点を修正しました。

[インストーラ関連]

- ・複数の弊社エミュレータが共存する環境でバージョンアップインストールを行うと、PC の再起動後にセッションが起動できなくなることがある。

- ・バージョンアップインストールを行うと、「ユーザ名」と「会社名」が、新規インストール時のユーザ登録画面で設定した情報から PC に登録されている情報に変更されてしまう。

[プリンタ機能関連]

- ・「エミュレータのプロパティ」で行ったローカルコピーの設定が、設定後に起動したディスプレイセッションのローカルコピーの結果や「ローカルコピーのプロパティ」に反映されていない。
※「エミュレータのプロパティ」の設定を移行する設定でバージョンアップインストールを行った環境では、現象は発生しません。

[ユーティリティ関連]

- ・「エミュレータのプロパティ」のプリンタの設定およびローカルコピーの設定で、基本設定の出力先プリンタのプロパティの設定が保存されないことがある。
※出力先プリンタのプロパティは、基本設定の編集形式が「Windows プリンタドライバ」または「Windows プリンタドライバ (枠線あり)」(ローカルコピーの設定のみ)で、詳細設定の「セッション起動時に出力先プリンタ設定の反映」をチェックした場合に設定できます。
- ・「マクロ編集」、「ホットスポット設定」で、ツールバーを非表示にすると、メニューバーの下に不要な空間が追加される。

[API 機能関連]

- ・EHLLAPIの「Query Extended Window Status(104)」を実行すると、qwsx_struct 構造体の qwsx_cyfont に「実際の値+1」がセットされる。

[ヘルプ関連]

- ・「エミュレータのプロパティ」の、ディスプレイ定義 - ディスプレイの設定 - 詳細設定の「数字用キーロック」の説明に誤りがある。
<誤>
使用する : 数字 (0～9)、記号 (. -)、DUP のみが入力可能
修正型で使用する : [使用する] のキーに加え、スペース、記号 (, #) が入力可能
<正>
使用する : 数字 (0～9)、記号 (. -,)、スペース、DUP のみが入力可能
修正型で使用する : [使用する] のキーに加え、記号 (#) が入力可能
- ・プリンタセッションの、プリンタセッションの状態表示 - [メッセージ (システム/プリンタ状況)] の説明のなかにある「プリンタ初期化失敗」のリンクをクリックしても、「プリンタ初期化失敗」の説明が表示されない。

[制限事項]

- ・以下の OS に「CJS DLC プロトコルドライバ」をインストールする場合、事前にマイクロソフト社から提供されているセキュリティ更新プログラムを適用する必要があります。
適用に際しては「マイクロソフト セキュリティ アドバイザリ 3033929」をご確認ください。
 - ・対象となる OS
 - ・ Microsoft Windows 7 Professional
 - ・ Microsoft Windows 7 Professional x64
 - ・ Microsoft Windows 7 Enterprise
 - ・ Microsoft Windows 7 Enterprise x64
 - ・ Microsoft Windows 7 Ultimate
 - ・ Microsoft Windows 7 Ultimate x64

 - ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise
 - ・セキュリティ更新プログラム
KB3033929

[その他]

以下の仮想環境での動作を確認しています。

仮想化システム	ゲスト OS	32 ビット	64 ビット
VMware Horizon View 6.1(ESXi 5.5 Update2)	Windows 7 Professional SP1	—	○
	Windows 8.1 Enterprise	○	—
	Windows Server 2008 R2 Datacenter SP1	—	○
	Windows Server 2012 R2 Standard	—	○
Citrix XenDesktop 7.5	Windows 7 Professional SP1	○	—
	Windows 8.1 Pro	—	○
	Windows Server 2008 R2 Datacenter SP1	—	○
	Windows Server 2012 R2 Standard	—	○
Microsoft VDI (Windows Server 2012 R2 Hyper-V)	Windows 7 Professional SP1	○	—
	Windows 8.1 Enterprise	—	○
	Windows Server 2008 R2 Standard SP1	—	○
	Windows Server 2012 R2 Standard	—	○
VMware ESXi 5.5	Windows Server 2012 R2 Standard	—	○
Windows Server 2012 R2 Hyper-V	Windows Server 2008 R2 Standard SP1	—	○

○：確認済み —：対象外

注意事項

・ DLC 接続について

- (1) 弊社の確認作業では、VMware vSphere の仮想 NIC のタイプが「e1000」および「e1000e」の場合、通信が不安定になる現象が発生しました。VMware vSphere では、仮想 NIC のタイプを「vmxnet3」に設定することを推奨します。
- (2) チューニングした複数の仮想 NIC が同一の仮想スイッチに紐付けされている場合、ホストからの受信データが重複します。仮想スイッチと仮想 NIC は、1 対 1 となるように構成してください。
- (3) Windows Server 2012 R2 で Hyper-V 上の仮想マシンに DirectLink DLC 対応版の稼働環境を構築する場合、マイクロソフト社が提供する修正プログラムを以下のページからダウンロードしてホスト OS に適用する必要があります。
<http://support.microsoft.com/kb/2902821>
- (4) Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012 R2 の場合は CPU 数を 2 以上に設定することを推奨します。

<前提条件>

仮想環境での利用を計画する場合、次の条件をふまえて検討してください。

- ・ 仮想化システム、ゲスト OS の保守については、お客様の責任でそれぞれのメーカー様、ベンダー様とご契約ください。
- ・ ゲスト OS は、ネットワークの接続も含め正常に動作している必要があります。
- ・ ゲスト OS のリソースは、ゲスト OS の必要分の他に弊社製品の H/W 要件を満たす十分なリソースを割り当ててください。
- ・ 仮想環境に起因する不具合は、弊社では対応できません。それぞれのメーカー様、ベンダー様までお問い合わせください。

弊社で確認した仮想化システムとゲスト OS のバージョンと違うバージョンを組み合わせた場合の動作については弊社営業にご相談ください。

以 上

Microsoft、Windows、Windows Server および Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

お客様各位

キヤノンITソリューションズ株式会社

DirectLink DLC対応版
日本語5250エミュレータ
バージョン5.02 リビジョン01 変更内容について

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「DirectLink DLC 対応版 日本語 5250 エミュレータ」
(Ver.5.01-01→Ver.5.02-01) において、下記のような改修を行いましたのでお知らせ
致します。

敬具

記

[強化項目]

以下の機能を強化しました。

[システム全般]

- ◎以下の OS を動作対象から除きました。
- ・ Microsoft Windows Vista Business
 - ・ Microsoft Windows Vista Business x64
 - ・ Microsoft Windows Vista Enterprise
 - ・ Microsoft Windows Vista Enterprise x64
 - ・ Microsoft Windows Vista Ultimate
 - ・ Microsoft Windows Vista Ultimate x64

 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Standard
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Standard x64
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Enterprise
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Enterprise x64

[インストーラ関連]

- ◎以下の OS で、「ホストリンクエクスプローラ」と「ツールパネル」のショートカットをデスクトップに作成できるようにしました。
- ・ Microsoft Windows 7 Professional
 - ・ Microsoft Windows 7 Professional x64
 - ・ Microsoft Windows 7 Enterprise
 - ・ Microsoft Windows 7 Enterprise x64
 - ・ Microsoft Windows 7 Ultimate
 - ・ Microsoft Windows 7 Ultimate x64

 - ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise

[改修項目]

以下の問題点を修正しました。

[インストーラ関連]

- ・「Windows¥system」フォルダのある OS でエミュレータのアンインストールに失敗した場合、再度アンインストールを実行するとアンインストールが終了しないことがある。

[DirectLink(DLC 接続)関連]

- ・受信した TEST コマンドの DSAP が「0x00」の場合、DSAP に一致する「ローカル SAP」がないためレスポンスを送信しない。

*DSAP : Destination Service Access Point

[マニュアル関連]

- ・『ソフトウェア説明書』に、リモートデスクトップサービスまたはターミナルサービスがインストールされている環境にエミュレータをインストールしようとした場合、インストールの途中でフォントの登録に失敗する現象を回避する方法が記載されていない。

[制限事項]

- ・以下の OS に「CJS DLC プロトコルドライバ」をインストールする場合、事前にマイクロソフト社から提供されているセキュリティ更新プログラムを適用する必要があります。
適用に際しては「マイクロソフト セキュリティ アドバイザリ 3033929」をご確認ください。

- ・対象となる OS
 - ・ Microsoft Windows 7 Professional
 - ・ Microsoft Windows 7 Professional x64
 - ・ Microsoft Windows 7 Enterprise
 - ・ Microsoft Windows 7 Enterprise x64
 - ・ Microsoft Windows 7 Ultimate
 - ・ Microsoft Windows 7 Ultimate x64
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise
- ・セキュリティ更新プログラム
KB3033929

[その他]

以下の仮想環境での動作を確認しています。

仮想化システム	ゲスト OS	32 ビット	64 ビット
VMware Horizon View 6.0 (ESXi 5.5 Update2)	Windows 7 Professional SP1	—	○
	Windows 8.1 Enterprise	○	—
	Windows Server 2008 R2 Datacenter SP1	—	○
	Windows Server 2012 R2 Standard	—	○
Citrix XenDesktop 7.5	Windows 7 Professional SP1	○	—
	Windows 8.1 Enterprise	—	○
	Windows Server 2008 R2 Datacenter SP1	—	○
	Windows Server 2012 R2 Standard	—	○
Microsoft VDI (Windows Server 2012 R2 Hyper-V)	Windows 7 Professional SP1	○	—
	Windows 8.1 Enterprise	—	○
	Windows Server 2008 R2 Standard SP1	—	○
	Windows Server 2012 R2 Standard	—	○
VMware vSphere 5.5	Windows Server 2008 R2 Standard	—	○
Windows Server 2012 Hyper-V	Windows Server 2012 Standard	—	○

○：確認済み —：対象外

注意事項

・ DLC 接続について

- (1)弊社の確認作業では、VMware vSphere の仮想 NIC のタイプが「e1000」および「e1000e」の場合、通信が不安定になる現象が発生しました。VMware vSphere では、仮想 NIC のタイプを「vmxnet3」に設定することを推奨します。
- (2)チーミングした複数の仮想 NIC が同一の仮想スイッチに紐付けされている場合、ホストからの受信データが重複します。仮想スイッチと仮想 NIC は、1 対 1 となるように構成してください。
- (3)Windows Server 2012/2012 R2 で Hyper-V 上の仮想マシンに DirectLink DLC 対応版の稼働環境を構築する場合、マイクロソフト社が提供する修正プログラムを以下のページからダウンロードしてホスト OS に適用する必要があります。
<http://support.microsoft.com/kb/2902821>
- (4)CPU 数について、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012/2012 R2 の場合は CPU 数を 2 以上に設定することを推奨します。

<前提条件>

仮想環境での利用を計画する場合、次の条件をふまえて検討してください。

- ・ 仮想化システム、ゲスト OS の保守については、お客様の責任でそれぞれのメーカー様、ベンダー様とご契約ください。
- ・ ゲスト OS は、ネットワークの接続も含め正常に動作している必要があります。
- ・ ゲスト OS のリソースは、ゲスト OS の必要分の他に弊社製品の H/W 要件を満たす十分なリソースを割り当ててください。
- ・ 仮想環境に起因する不具合は対応できかねます。

弊社で確認した仮想化システムとゲスト OS のバージョンと違うバージョンを組み合わせた場合の動作については弊社営業にご相談ください。

以上

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Server および Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

お客様各位

キャノンITソリューションズ株式会社

DirectLink DLC対応版
日本語 5250 エミュレータ
バージョン 5.01 リビジョン01 変更内容について

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「DirectLink DLC 対応版 日本語 5250 エミュレータ」
(Ver.4.10-01→Ver.5.01-01) において、下記のような改修を行いましたのでお知らせ
致します。

敬具

記

[強化項目]

以下の機能を強化しました。

[システム全般]

- ◎以下の OS に対応しました。
- ・ Microsoft Windows 8 Pro
 - ・ Microsoft Windows 8 Pro x64
 - ・ Microsoft Windows 8 Enterprise
 - ・ Microsoft Windows 8 Enterprise x64
 - ・ Microsoft Windows 8.1 Pro
 - ・ Microsoft Windows 8.1 Pro x64
 - ・ Microsoft Windows 8.1 Enterprise
 - ・ Microsoft Windows 8.1 Enterprise x64
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Standard(SP2)
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Standard x64(SP2)
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Enterprise(SP2)
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 Enterprise x64(SP2)
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard(SP2)
 - ・ Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise(SP2)
 - ・ Microsoft Windows Server 2012 Standard
 - ・ Microsoft Windows Server 2012 Datacenter
 - ・ Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard
 - ・ Microsoft Windows Server 2012 R2 Datacenter

- ◎以下の OS を動作対象から除きました。
- ・ Microsoft Windows XP Professional
 - ・ Microsoft Windows XP Professional x64

- ◎必要メモリサイズが「約 256MB」になりました。

[ホストリンクエクスプローラ機能関連]

- ◎セッションを起動するショートカットをデスクトップに作成できるようにしました。

[DirectLink(DLC 接続)関連]

- ◎CJSDLC ドライバが NDIS6.0 に対応しました。
 - ◎以下の操作を行った際に、LAN アダプタのアダプタ番号が変更されないようにしました。
 - ・NIC(Network Interface Card)の着脱、または有効/無効の切り替え
 - ・「CJS DLC プロトコル」の有効/無効の切り替え ※1
- ※1：Windows Server 2008 の場合はローカル エリア接続のプロパティで、
Windows Server 2012 の場合はイーサネットのプロパティで設定します。

[ディスプレイ機能関連]

- ◎画面サイズが変更された場合、指定されているフォントサイズを基準にウィンドウサイズを拡大/縮小して表示できるようにしました。

[データ転送機能関連]

- ◎CSV 形式での受信時、データ内の「"」を「"」に置換するようになりました。
また、CSV 形式での送信時、データ内の「"」を「"」に置換するようになりました。
- ◎データ転送パネルのデータ・オプションで指定する以下の SQL 構文の最大入力文字数を 1024 バイトから 2048 バイトに拡張しました。
 - ・Join by
 - ・Group by
 - ・Select
 - ・Where
 - ・Having
 - ・Order by

[ツール関連]

- ◎CJSDLC ドライバ保守ツールのアダプタ番号表示画面に、CJSDLC ドライバの状態を表示するようになりました。
- ◎CJSDLC ドライバ保守ツールにサービス画面を追加し、以下の操作をできるようにしました。
 - ・CJSDLC ドライバの開始/停止
 - ・CJSDLC ドライバのファイル情報の参照

[保守機能関連]

- ◎「エミュレータ保守」の保守機能を強化しました。
また、各種ツールの保守機能を「エミュレータ保守」に統合しました。
 - <主な機能>
 - ・各種トレースの採取設定
 - ・各種トレースの詳細設定（ファイルサイズ、ファイル数、採取レベル）
 - ・各種ログの採取
 - ・イベントログの設定（出力レベル）
 - ・エラーログの設定（ファイルサイズ、ファイル数）
 - ・トレース/ログの総出力サイズ、および出力先ドライブの空き容量の表示
 - ・情報収集
- これにより、エミュレータのプロパティの「保守設定画面」、および CJSDLC ドライバ保守の「トレース設定画面」は削除しました。
- ◎トレースを出力する処理を高速化しました。
- ◎DLC 接続のスローダウンの発生状況をイベントログに出力するようになりました。

[改修項目]

以下の問題点を修正しました。

[インストーラ関連]

- ・バージョンアップインストールを行うと、正常にインストールが完了しているにもかかわらず、「このプログラムは正しくインストールされなかった可能性があります」というメッセージが表示されることがある。

[DirectLink(DLC 接続)関連]

- ・DLC 接続で、送信ができず「お待ちください」が表示されたままになることがある。
- ・トレース出力によるディスク I/O 処理で遅延が発生した場合に、通信が切断されることがある。
- ・DLC 接続で、受信したコマンドのフレームタイプではなく、常に 802.3 形式と Ethernet V2 形式の両フレームタイプで TEST レスポンスおよび XID レスポンスを送信する。

[ディスプレイ機能関連]

- ・半角文字が入力されている混在フィールドの先頭から挿入モードで全角文字を入力すると、不正な縦罫線が表示されることがある。
- ・入力フィールドが複数ある画面で英小文字の u のキーを押下し続けると、時々英大文字の U が入力される。
- ・機能キーを登録した UPF キーをアサインした状態で実行されない機能キーある。

[プリンタ機能関連]

- ・プリンタ定義で出力先を「通常使うプリンタ」に設定している場合に、プリンタセッションで「終了時の状態保存」を ON にしてプリンタセッションを終了し、OS の「通常使うプリンター」を削除/名称変更するとプリンタセッションが起動できない。
- ・横倍指定のオーダーを受けると、標準サイズに戻すオーダーを受けても、横倍のまま出力される。
- ・80 バイト以上のプリンタ名のプリンタを使用すると、アプリケーションエラーが発生する。
※使用するプリンタのプリンタ名は、79 バイト以内で設定してください。

[データ転送機能関連]

- ・「データ転送システム設定」の左画面で、接続先の定義名を選択した際に右画面に表示される [ネットワークトレースの最大ファイルサイズ] と [ネットワークトレースの最大ファイル数] の値が逆になっている。
- ・「データ転送システム設定」の初回起動時に何も設定せずに終了し、再度「データ転送システム設定」を起動すると「設定ファイルの読み込みに失敗しました」と表示される。
- ・データ転送パネルの受信モードで、[出力先] を“ディスプレイ”にした時に表示される画面で、キャンセルを繰り返すとアプリケーションエラーが発生することがある。
- ・IBM 製 Personal Communications 5.9 よりも古いバージョンで作成した TTO ファイルを開くと、「転送要求ファイルの読み込みに失敗しました。」と表示される。
- ・送信ファイルの 1 レコードの長さが転送するファイルのレコード長より短い場合にアプリケーションエラーが発生する。
- ・「ライブラリ/ファイル (メンバ)」の指定で、最初の「/」の次の文字から最初の「(」の直前までのファイル名の長さが 30 バイトを超えるデータを受信するとアプリケーションエラーが発生する。

- ・データ受信時のファイル書き込みモードが「新規保存」の場合、対象のファイルが存在すると、エラーメッセージが「PC ファイルが見つかりません。」と表示される。
- ・データ転送パネルの受信モードで、[出力先]を“ディスプレイ”にしデータの受信中に、受信データ表示ダイアログを[閉じる]ボタンで終了させると、受信データ表示ダイアログが固まることある。
- ・データ転送開始時に[中断]ボタンを押してもデータ転送が中断できないことがある。
- ・ファイル形式を「無変換」、送信ファイルオプションを「ファイルタイプ」に指定して送信を実行すると、「カラム xxx への割り当て時に変換エラー。」と表示される。

[ユーティリティ関連]

- ・コード変換テーブル（送信：JIS83→-host）の初期値の誤りを修正しました。
対象 JIS コード：0x8D3F~0x8D48、0x8D4E~0x8D57、0x9175、0x917A、0x3937、0x9452
- ・プリントジョブスケジューラ設定でプリントジョブ出力後の処理に「指定時間後に削除」を指定しているにもかかわらず、設定した指定時間を過ぎた情報が残ることがある。

[保守機能関連]

- ・レジストリ保守ツールで[ファイル出力]をした場合、以下の項目が出力されない。
 - ・通信システム設定項目
 - ・マクロコントローラの表示
 - ・プリントジョブスケジューラの表示

[API 機能関連]

- ・EHLLAPI で、「Search Presentation Space(6)」を実行すると、EHLLAPI アプリケーションが応答しなくなる。
- ・セッションを起動していない状態で、EHLLAPI の「Copy Presentation Space(5)」を実行すると、ランタイムエラーが発生する。
- ・セッションを起動していない状態で、EHLLAPI の「Copy Presentation Space(5)」を、コピーの開始位置が 2 バイト文字の 2 バイト目や終了位置が 2 バイト文字の 1 バイト目になる状態で実行すると、アプリケーションエラーが発生することがある。
- ・EHLLAPI の以下の関数で、フィールド属性のフィールド・タイプの値が正常に取得できないことがある。
 - ・Copy Presentation Space(5)
 - ・Copy Presentation Space To String(8)
 - ・Query Field Attribute(14)
 - ・Copy String To Presentation Space(15)
 - ・Find Field Position(31)
 - ・Find Field Length(32)
 - ・Copy String To Field(33)
 - ・Copy Field To String(34)
- ・EHLLAPI の「Copy Field To String(34)」で、フィールド長を超える値のデータ・ストリング長を指定すると、戻りコードが「6」にならず「0」となる。

※戻りコード「6」:HARC_TRUNCATION
戻りコード「0」:HARC_SUCCESS

[IWS 機能関連]

- ・ マクロの実行を指定した UPF キーをアサインしたキーを連続して押下すると、マクロコントローラのエラーメッセージが表示され、最終的にはアプリケーションエラーが発生する。

[制限事項]

- ・ Ver.4.10-01 より前のバージョンの TCPLink スタンダード/DirectLink との共存はできません。
- ・ プリントサーバとの共存はできません。
- ・ TCPLink ゲートウェイサーバとの共存はできません。
- ・ DirectLink DLC 対応版 日本語 3270 エミュレータとの同時利用はできません。

[その他]

以下の仮想環境での動作を確認しています。

デスクトップ仮想化

仮想化システム	ゲスト OS	32 ビット	64 ビット
VMware Horizon View 6.0 (ESXi 5.5)	Microsoft Windows 7 Professional SP1	—	○
	Microsoft Windows 8.1 Pro	—	○
	Microsoft Windows Server 2008 R2 Datacenter	—	○
Citrix XenDesktop 7.5	Microsoft Windows 7 Professional SP1	—	○
	Microsoft Windows 8.1 Pro	—	○
	Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard SP1	—	○
	Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard	—	○
Microsoft VDI G2	Microsoft Windows 7 Professional SP1	—	○
	Microsoft Windows 8.1 Pro	—	○
	Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard SP1	—	○
	Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard	—	○

○：確認済み —：対象外

サーバ仮想化

仮想化システム	ゲスト OS	32 ビット	64 ビット
VMware vSphere 4.1	Microsoft Windows 7 Enterprise SP1	○	—
Windows Server 2012 Hyper-V	Microsoft Windows Server 2012 Standard	—	○
Windows Server 2012 R2 Hyper-V	Microsoft Windows Server 2008 Standard	—	○

○：確認済み —：対象外

<注意事項>

・デスクトップ仮想化について

仮想化されたデスクトップ環境にエミュレータをインストールする場合、セットアップが停止する問題が発生します。

その場合は、以下の回避策をお試しくください。

【Horizon View】

VMware 社 Web サイトにて次の内容をご確認の上お試しくください。

- ・VMware Knowledge Base 2091845

タイトル「Legacy applications fail to start with the VMware View 6.0 or 6.0.1 agent installed (2091845)」

【XenDesktop】

①デバイスマネージャを起動し、「Citrix Devices」の「Citrix Systems Inc. Console Mouse Device」を無効にし、OS を再起動します。

②エミュレータをインストールします。

③①の「Citrix Systems Inc. Console Mouse Device」を有効にし、OS を再起動します。

・ DLC 接続について

- (1) 弊社の確認作業では、VMware vSphere の仮想 NIC のタイプが「e1000」および「e1000e」の場合、通信が不安定になる現象が発生しました。VMware vSphere では、仮想 NIC のタイプを「vmxnet3」に設定することを推奨します。
- (2) チーミングした複数の仮想 NIC が同一の仮想スイッチに紐付けされている場合、ホストからの受信データが重複します。仮想スイッチと仮想 NIC は、1 対 1 となるように構成してください。
- (3) Windows Server 2012/2012 R2 で Hyper-V 上の仮想マシンに DirectLink(DLC 接続)稼働環境を構築する場合、マイクロソフト社が提供する修正プログラムを以下のページからダウンロードしてホスト OS に適用する必要があります。
<http://support.microsoft.com/kb/2902821>
- (4) Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012/2012 R2 の場合は CPU 数を 2 以上に設定することを推奨します。

<前提条件>

仮想環境での利用を計画する場合、次の条件をふまえて検討してください。

- ・ 仮想化システム、ゲスト OS の保守については、お客様の責任でそれぞれのメーカー様、ベンダー様とご契約ください。
- ・ ゲスト OS は、ネットワークの接続も含め正常に動作している必要があります。
- ・ ゲスト OS のリソースは、ゲスト OS の必要分の他に弊社製品の H/W 要件を満たす十分なリソースを割り当ててください。
- ・ 仮想環境に起因する不具合は対応できかねます。

弊社で確認した仮想化システムとゲスト OS のバージョンと違うバージョンを組み合わせた場合の動作については弊社営業にご相談ください。

以 上

お客様各位

キヤノンITソリューションズ株式会社

DirectLink DLC対応版
日本語 5250 エミュレータ
バージョン 4.10 リビジョン01 変更内容について

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「DirectLink DLC 対応版 日本語 5250 エミュレータ」
(Ver.3.51-01→Ver.4.10-01) において、下記のような改修を行いましたのでお知らせ
致します。

敬具

記

[概要]

- ・弊社社名変更に伴い、関連する表記を修正しました。

[強化項目]

以下の機能を強化しました。

[システム全般]

- ◎IBM i (AS/400)上の as-database サービスを使用したデータ転送機能をサポートしました。
データ転送は、ディスプレイセッションの操作メニュー、ツールパネル、エミュレータのプログラムフォルダから起動したデータ転送パネル、またはコマンドラインから実行できます。

[ディスプレイ機能関連]

- ◎以下の画面サイズをサポートしました。
 - ・27×132

- ◎以下の機能キーをサポートしました。

- ・範囲移動↑
- ・範囲移動↓
- ・範囲移動←
- ・範囲移動→
- ・マクロ記録
- ・マクロ再生
- ・マクロ一時停止
- ・マクロ中止

※以下の機能には対応していません。

- ・ディスプレイセッションのツールボタン
- ・UPF
- ・エミュレータキーパッド
- ・ホットスポット
- ・マクロ
- ・EHLLAPI

- ◎「挿入」キーの名称を「挿入切替」に変更しました。

◎ローカルコピーにおいて、編集形式が「テキスト」の場合、通常のフォントにはない以下の特殊文字をスペースではなく代替文字で出力するようにしました。

	代替文字
・ (PC コード : 0x7F)	→
・ ~ (PC コード : 0xFF)	→ ~

[プリンタ機能関連]

◎編集形式が「テキスト」の場合、通常のフォントにはない以下の文字をスペースではなく代替文字で出力するようにしました。

	代替文字
・ (PC コード : 0x7F)	→
・ ~ (PC コード : 0xFF)	→ ~

[ユーティリティ関連]

◎エミュレータのプロパティにおいて、ディスプレイ定義のカラー設定および属性設定の初期設定でメインフレームメーカーの純正エミュレータと同じ色に設定できるようにしました。

[API 機能関連]

◎提供ファイルを以下の環境で作成したファイルに変更しました。

- ・ C 言語 : Microsoft 社製 Visual C++ 6.0
- ・ VB 言語 : Microsoft 社製 Visual Basic 6.0

[改修項目]

以下の問題点を修正しました。

[DirectLink(DLC 接続)関連]

- ・ ネットワークの状態の切り替えにより、ブルースクリーンが表示されることがある。

[ディスプレイ機能関連]

- ・ UPF キーパッドから「ジャンプ」キーまたは「前ジャンプ」キーが実行されると、セッションがハングアップする。
- ・ UPF キーパッドのボタンが押下されると、アプリケーションエラーが発生することがある。
- ・ エミュレータキーパッドから機能キーの実行および文字の入力が行われると、アプリケーションエラーが発生することがある。
- ・ 保護フィールドのみの画面で「後退」キーが押下されると、アプリケーションエラーが発生する。
- ・ 不定様式画面で「タブ・ワード」キーまたは「後退タブ・ワード」キーが押下されると、セッションがハングアップする。
- ・ 1 画面データに入力不可の解除の可否を指定するオーダーが複数個含まれる場合に最後のオーダーの指定を有効としない。
- ・ Repeat To Address オーダーを受信すると、オーダーで指定された範囲内のフィールドを消去してしまう。
- ・ カーソルが DDS ウィンドウの先頭のメニュー項目から最後のメニュー項目の間、かつメニュー項目上以外にある状態で以下の機能キーが押下されると、入力不可とせず押下された機能キーの動作を実行して、カーソル位置から最後のメニュー項目までのメニュー項目と DDS ウィンドウ枠を消去してしまう。
 - ・ Field Exit
 - ・ Field +
 - ・ Field -

- ・「ジャンプ」キーまたは「前ジャンプ」キーが実行されても、画面を切り替えないことがある。
- ・ローカルコピーで、ディスプレイ定義で設定された文字モードと異なる文字モードで印刷することがある。
- ・エミュレータキーパッドに機能キーの「前ジャンプ」がない。

[ファイル転送機能関連]

- ・ファイル転送が実行されると、アプリケーションエラーが発生することがある。

[ユーティリティ関連]

- ・エミュレータスタイルの設定のツールバータブにおいて、以下のショートカットキーでフォーカスが正しく移動しない。
 - ・ Alt+L
 - ・ Alt+B
 - ・ Alt+T
- ・レジストリ保守ツールの印刷機能およびファイル出力機能で、ソフトウェアスイッチの情報を正しく出力しないことがある。

[API 機能関連]

- ・ディスプレイセッションに EHLLAPI または PCSAPI の関数が実行されると、アプリケーションエラーが発生することがある。

[制限事項]

- ・以下の弊社エミュレータとの共存はできません。
 - ・ Ver.2.50-01 以前の SingleLink
 - ・ Ver.2.50-01 以前の DirectLink HIS 対応版

以 上

お客様各位

キヤノンITソリューションズ株式会社

DirectLink DLC対応版
日本語 5250 エミュレータ
バージョン 3.51 リビジョン01 変更内容について

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「DirectLink DLC 対応版 日本語 5250 エミュレータ」
(Ver.3.50-01→Ver.3.51-01) において、下記のような改修を行いましたのでお知らせ
致します。

敬具

記

[強化項目]

以下の機能を強化しました。

[システム全般]

- ◎以下の OS を動作対象から除きました。
 - ・ Windows 2000 Professional

[プリンタ機能関連]

- ◎編集形式が IBM5575/5577 の場合、最大印刷行数 255 行まで印刷できるようにしました。

[改修項目]

以下の問題点を修正しました。

[システム全般]

- ・ ホストコード (6D82、7278) との対応づけに誤りがあったため、JIS78、JIS83、JIS90 について次のように修正しました。

ホストコード		JIS コード (シフト JIS コード)
6D82	→	876A (F48A)
7278	→	916A (F98A)

- ・ エミュレータが起動されたまま OS をシャットダウンすると、「プログラムが閉じられていません」のメッセージが表示され、メッセージ内の「強制的にシャットダウン」を選択するとアプリケーションエラーが発生する。

[インストール関連]

- ・ Windows Vista または Windows 7 で、DLC プロトコルドライバのインストール時に「プログラム互換性アシスタント」の警告が表示される。

[ディスプレイ機能関連]

- ・ ブリンクモードが“ブリンク”の場合に、ディスプレイセッションが応答しなくなることがある。
- ・ 送信フィールド、および ReadInputFields コマンドを含むデータを受信後、画面遷移ができなくなる。

- ・現在位置が 1 行 1 桁目の状態でフィールド長 1919 の **START OF FILED** コマンドを受信した後に返す画面情報が不正になる。
- ・入力フィールド数の上限は **256** であるにもかかわらず、入力フィールド数が **251~256** のデータに対して否定応答を返す。
- ・**WRITE ERROR CODE** コマンドを受信後、**3270** エミュレーション画面データに対して否定応答を返す。
- ・**Windows Vista** または **Windows 7** で以下の条件をすべて満たす場合に、文字を入力すると、下線の一部や文字と隣り合った縦罫線が消えることがある。
 - ・**Windows** のデスクトップのカスタマイズで「**ClearType**」を有効にしている
 - ・エミュレータのディスプレイ定義で「**直接描画方式**」を指定している

[プリンタ機能関連]

- ・縦横 1/2 の縮小文字が正しい印刷位置より左に印刷される。
- ・文字の高さより広い改行幅の後に文字の高さより狭い改行幅が指定されると、文字が正しい印刷位置より上に印刷される。
- ・印刷行密度が以下の場合に、縦倍角文字の下側が二重に印刷される。
 - ・2LPI
 - ・3LPI
 - ・4LPI
 - ・6LPI
- ・「データ待ち」の場合、改ページボタンを押下しても、最大印刷行数分改行されない。
- ・未サポートの制御コードを含むデータを受信すると、"**APEMU32.DLL**"のアプリケーションエラーが発生する。
- ・「プリンタセッション終了」のメッセージボックス表示中に、ディスプレイセッションからエミュレータ終了すると、アプリケーションエラーが発生する。

[ファイル転送機能関連]

- ・ファイル転送パネルで「**Microsoft XPS Document Writer**」に印刷すると、文字化けする。

[ユーティリティ関連]

- ・異なるプリンタドライバを同じプリンタ名で入れ替えた場合、エミュレータのプロパティのプリンタ定義を開こうとすると、"**LODLIB32.EXE**"のアプリケーションエラーが発生する。
- ・エミュレータのプロパティのディスプレイ定義で、コードテーブル定義の「**JIS コード指定**」が空欄になっていることがある。
- ・レジストリ保守で、レジストリの復元に失敗することがある。
- ・レジストリ保守で「**Microsoft XPS Document Writer**」に印刷すると、文字化けする。

[API 機能関連]

- ・**EHLLAPI** で、「**Copy String To Presentation Space(15)**」を実行すると、ディスプレイセッションが応答しなくなることがある。
- ・**EHLLAPI** で、「**Get Key(51)**」の初回実行時の戻りコードが、関数の使用方法に問題がないにもかかわらず、"**HARC_SYSTEM_ERROR**"になることがある。
- ・**EHLLAPI** で、キー入力する前に、セッション・オプションに **TWAIT** を指定して「**Get Key(51)**」を実行すると、**Microsoft Visual C++ Runtime Library** の **Runtime Error** が発生する。

2007年 9月28日

お客様各位

キヤノンITソリューションズ株式会社

**DirectLink DLC対応版
日本語5250エミュレータ
バージョン3.50 リビジョン01 変更内容について**

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「DirectLink DLC対応版 日本語5250エミュレータ」
(Ver.3.01-02->Ver.3.50-01)において、下記のような改修を行いました
のでお知らせ致します。

敬具

概要

- ・弊社社名変更に伴い、関連する表記を修正しました。

[強化項目]

以下の機能を強化しました。

[システム全般]

自動起動が設定されていない端末でのインストーラ起動モジュールを"SETUP.EXE"に変更しました。

[ディスプレイ機能関連]

罫線情報付き READ SCREEN コマンドに対応しました。

[ユーティリティ関連]

エミュレータ保守ユーティリティのアイコンを変更しました。

[保守機能関連]

DLC プロトコルドライバの保守ユーティリティで、トレース出力先を即時変更できるようにしました。

DLC プロトコルドライバの保守ユーティリティで、以下の設定ができるようにしました。

- ・アダプタキューサイズ
- ・プロセスコントロールキューサイズ
- ・ローカル SAP キューサイズ
- ・最大アウト(フレーム)送出時の即時ポーリング

[改修項目]

以下の問題点を修正しました。

[DirectLink(DLC 接続)関連]

- ・CJS DLC の場合、XID3 交換後のリンク接続未確立の状態ではエミュレータを終了すると、"CJS DLC.EXE" が異常終了する。
- ・CJS DLC の場合、DLC ドライバより LINK LOST イベントが通知されてもリンクが切断されないことがある。

[ディスプレイ機能関連]

- ・ 半角文字が全角文字に文字化けすることがある。
- ・ 文字モードが英数カナの場合に、“^”、“[”、“]”が入力できてしまう。
- ・ 英小文字が入力できないフィールドに英小文字が入力できてしまう。
- ・ 半角文字が入力できるフィールドに半角文字が入力できないことがある。

[ユーティリティ関連]

- ・ インストールされている全プリンタ名の合計が 4096 バイトを超える場合に、エミュレータのプロパティのディプリンタ定義の“出力先”リストに全プリンタ名が表示されない。

[IWS 機能関連]

- ・ マクロでファイル転送を行うと、マクロコントローラが“自動再生中”のまま終了しないことがある。

以 上

DirectLink DLC対応版
日本語5250エミュレータ
バージョン3.01 リビジョン02 変更内容について

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当社製品に格別なるご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。
さて、当社製品「DirectLink DLC対応版 日本語5250エミュレータ」
(Ver.2.07-02->Ver.3.01-02)において、下記のような改修を行いました
のでお知らせ致します。

敬具

概要

[強化項目]

以下の機能を強化しました。

[システム全般]

◎NEC PC-9800シリーズが対応パーソナルコンピュータから除かれました。
これにより、エミュレータのプロパティのシステム設定から「キーボード種別」の設定を削除しました。

◎以下のOSに対応しました。

- ・Windows XP Professional x64 Edition
- ・Windows Vista Business
- ・Windows Vista Business x64 Edition
- ・Windows Vista Enterprise
- ・Windows Vista Enterprise x64 Edition
- ・Windows Vista Ultimate
- ・Windows Vista Ultimate x64 Edition

◎以下のOSが動作対象から除かれました。

- ・Windows 95 Operating System
- ・Windows 98
- ・Windows Millennium Edition
- ・Windows NT 3.51 Workstation
- ・Windows NT Workstation Operating System Version 4.0

[ホストリンクエクスプローラ機能関連]

◎エミュレータのプロパティ、プリントジョブスケジューラ、マクロコントローラを使用させないように設定できるようにしました。

[ディスプレイ機能関連]

◎「コピー」「コピー追加」の実行時に、改行コードを付加するようにしました。

[プリンタ機能関連]

◎編集形式がWindowsプリンタドライバの場合に、自動的に出力倍率を出力用紙サイズに最適化して印刷できるようにしました。

[ユーティリティ関連]

- ◎エミュレータのプロパティのシステム設定タブのセッション設定をセッション設定タブに移動し、複数のセッションに対しまとめて設定できるようにしました。
- ◎エミュレータのプロパティの通信設定の「アダプタ番号」の設定範囲を0～15に拡張しました。
- ◎エミュレータのプロパティで、以下の設定ができるようにしました。
 - ・最大イン（フレーム）
 - ・最大アウト（フレーム）
 - ・再送制限
 - ・応答タイマ（t1）
 - ・受信確認タイマ（t2）
 - ・非アクティブタイマ（ti）

[オンラインリファレンス関連]

- ◎リファレンスマニュアル、および状況依存ヘルプをWindowsヘルプ形式からHTMLヘルプ形式に変更しました。

[改修項目]

以下の問題点を修正しました。

[システム全般]

- ・デュアルCPUやハイパースレッドのマシンで、排他制御に問題があり、リソースが解放されない。

[Direct Link（DLC接続）関連]

- ・CJSDLCの場合、セッションの起動中にホストがシャットダウンすると再接続されない。
- ・CJSDLCの場合、エミュレータ起動すると、通信チェック510のまま接続されないことがある。
- ・CJSDLCの場合、ホストからの受信が遅延する。
- ・CJSDLCの場合、リンク確立後にTESTコマンドやXIDコマンド／レスポンスを受信すると、応答が送信されず通信チェック510になる。
- ・CJSDLCの場合、TESTコマンド受信時にリンク確立のシーケンスが実行されない。
- ・CJSDLCの場合、リンク確立後にDMレスポンスを受信しても通信チェック505にならない。

[ディスプレイ機能関連]

- ・送信系のキーが実行できないことがある。
- ・1チェーン中に複数のコマンドデータを受信すると、“入力不可”のままとなる。
- ・数字専用フィールドにアルファベットが入力できることがある。
- ・DDS罫線を含む画面データを受信すると、前の画面に戻ってしまうことがある。
- ・印刷中に、マクロがアサインされているキーを押すと、“指定対象は使用されています”と表示される。
- ・ホットスポット機能を使用していると、マウスによるカーソル移動ができない。

[プリンタ機能関連]

- ・ローカルコピーを行うと、ハングアップすることがある。
- ・デュアルCPUやハイパースレッドのマシンで印刷要求を行うと、フリーズやアプリケーションエラーが発生することがある。
- ・大量に印刷すると、ページ抜けや行ズレが発生することがある。
- ・プリンタセッションの終了に時間が掛かることがある。

[保守機能関連]

- ・リモートデスクトップを使用してDLCプロトコルドライバ保守ユーティリティでトレースの即時変更を行うと、変更が有効にならない。
- ・DLCプロトコルドライバの保守ユーティリティで、「トレース出力先パス」を空白にすると、CJSDLドライバトレースがどこにも出力されないことがある。

[EHLLAPI/PCSAPI機能関連]

- ・EHLLAPIで、NORESETオプションを指定して「Send Key (3)」を実行すると、入力禁止状態の取消ができなくなる。

[IWS関連]

- ・マクロコマンド「window top」で、全ウィンドウの前に配置できないことがある。

[制限事項]

[EHLLAPI/PCSAPI機能関連]

- ・64ビット用SDKの提供はありません。

以上